

# 海況速報

平成元年度 第3号 (No.9)

平成1年 8月 9日

北海道立水産試験場

## 7月下旬～8月上旬の海況

### 〔日本海域〕

沿岸域の表面水温は道北までほぼ20℃以上となり、茂津多岬以南では23℃以上、津軽半島沖では25℃台を示しています。道北では武蔵堆域をはさむ東西海域で21℃台の高水温域があり、その間から19℃台の低水温域が石狩湾沖まで分布しています。

50m層水温分布の特徴として、積丹半島の北東沖と南西沖、並びに武蔵堆東側の天売島沖に、それぞれ顕著な暖水塊（渦）がみられています。

### 〔オホーツク海域〕

沿岸域の表面水温は16～19℃ですが、枝幸沖、能取岬沖及び知床岬沖にそれぞれ冷水塊（渦）がみられています（11～12℃台）。

中層では、沖合域に0℃以下の中冷水が広く分布しており、沿岸域との水温傾斜が急となっています。

### 〔エリモ以西太平洋海域〕

表面水温は下北半島沖で20～21℃台ですが、日高沿岸域では15～17℃台です。中・下層水温分布をみると、津軽海峡東口から、津軽暖流の暖水域が東～南東方向へ延びています。

一方、下北半島沿岸域には100m層で4℃台の低水温域がみられ、また日高沖では100m層で2℃台の冷水塊がみられているのが特徴的です。

夏季になって、全般に暖水域と冷水域との潮境が顕著となってきましたが、道南日本海域では潮境域が平年より沿岸寄りとなっています。沿岸域の表面水温は、日本海側では±1℃位で、オホーツク海沿岸域も含めほぼ平年並の状態です。しかし、日本海側沿岸域の中・下層水温は道北海域を中心に全般的に昨年または例年よりかなり高めの状態となっていて、6月の時期と同様の傾向が続いています。

なお、余市における沿岸水温は7月はほぼ平年並でしたが、8月に入ってかなり高めとなっています（9日までの上月平均水温は23.7℃で、平年より2℃近く高い状態）。

従って、今後まだ気温の高い状態が続けば、表面水温も平年より高めに推移するものと予想されます。

### 資料 【観測期間】

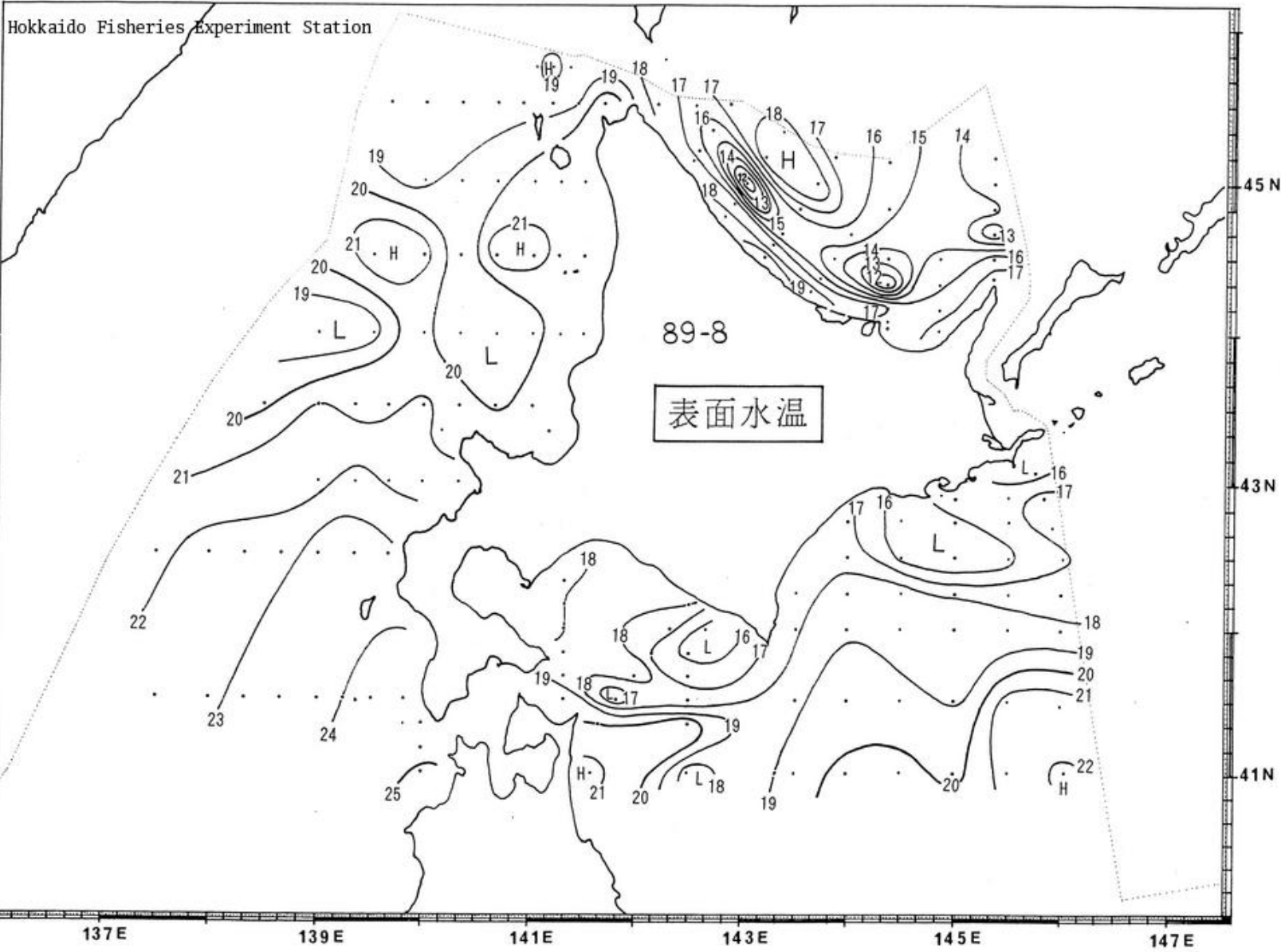
稚内水試（北洋丸）	7.25-7.28	（オホーツク海域）
	7.31-8.2	（道北日本海域）
函館水試（金星丸）	7.24-8.4	（エリモ以西太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	7.26-8.3	（道央・道南日本海域）

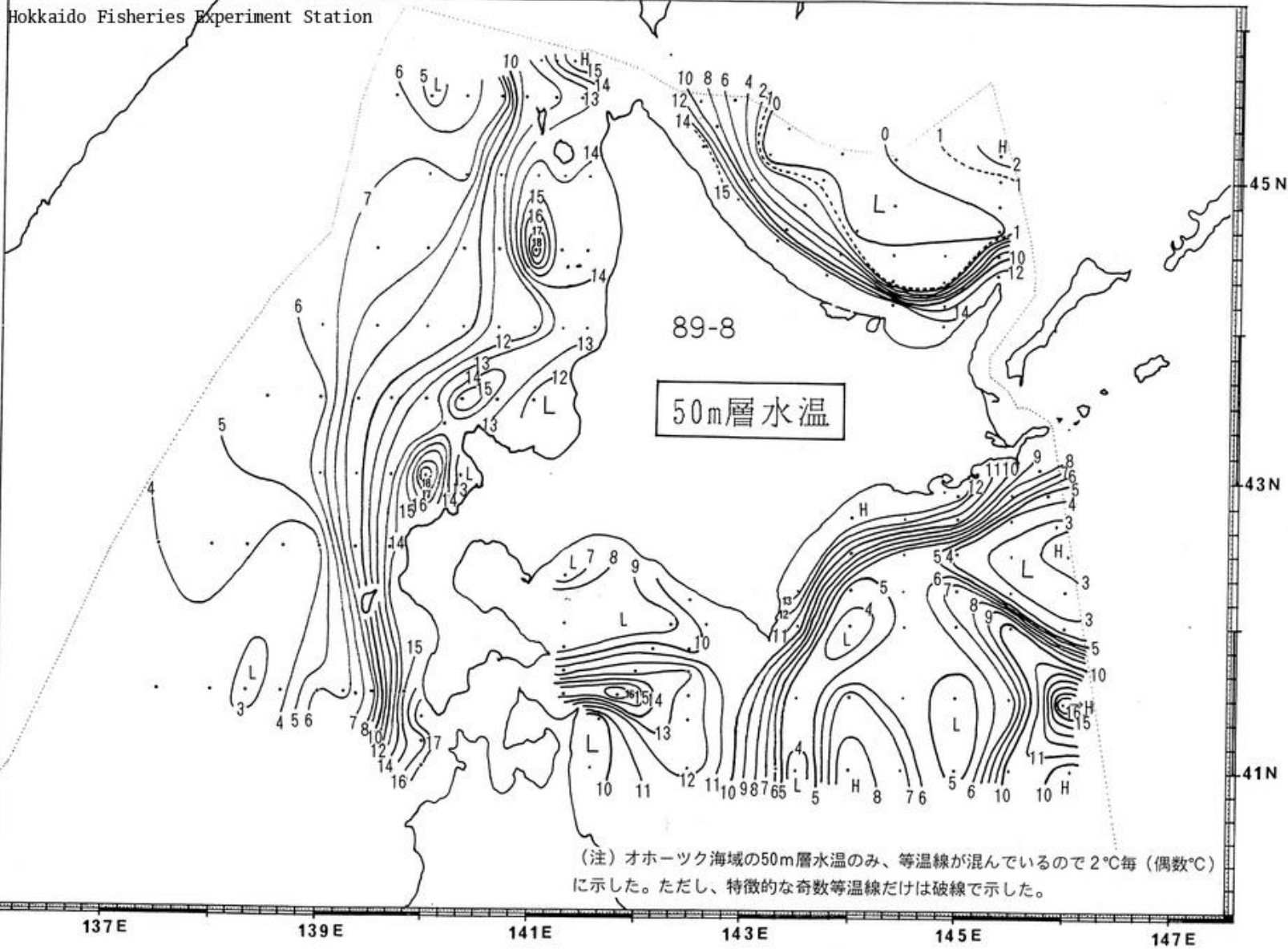
（注）金星丸はイカ類調査結果も含む。

なお、道東太平洋海域の定期観測は8月下旬に実施予定ですので今回は載せていません。調査結果は遅くなりますのでご了承願います。

（中央水試 海洋部）

Hokkaido Fisheries Experiment Station





(注) オホーツク海域の50m層水温のみ、等温線が混んでいるので2°C毎(偶数°C)に示した。ただし、特徴的な奇数等温線だけは破線で示した。

137E 139E 141E 143E 145E 147E

41N 43N 45N

Hokkaido Fisheries Experiment Station

89-8

100m層水温

